

明治大学大学院経営学研究科 (経営労務プログラム) 募集のご案内

平成20年度より、明治大学大学院経営学研究科に経営労務プログラムが開設され、連合会より、同プログラムに社会保険労務士を推薦することとしております。

同プログラムへの推薦により、これまでに120名の社労士が明治大学大学院に入学し、修了した方にはMBA(経営学修士)が授与されています。

令和5年度入試におきましても、下記のとおり募集要項が定められましたので、ご案内いたします。

なお、令和5年度入試から、応募要件について、社労士登録後の年数要件が撤廃されておりますので、ぜひこの機会に入学をご検討ください。

募集要項 (要約)

1. 明治大学大学院経営学研究科 (博士前期課程) 概要

- (1) 大学院所在地
東京都千代田区神田駿河台1-1
・JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線/御茶ノ水駅 下車徒歩3分
・東京メトロ千代田線/新御茶ノ水駅 下車徒歩5分
・都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線/神保町駅 下車徒歩10分
- (2) 授業時間帯
原則、平日(月曜日～金曜日)夜間・土曜日
※平日昼間開講の講義も履修可能
- (3) 修了要件
①2年以上在学し、所定の研究指導を受けていること。
②必修10単位含む36単位以上修得していること。
③成績の平均がB(GPA2.00)以上であること。
④修士論文(又は課題研究レポート)の提出及び合格すること。
- (4) 学費等(初年度)

入学金	200,000円
授業料	560,000円
教育充実料	60,000円
その他	3,000円
合計	823,000円
- (5) その他
①明治大学大学院の募集要項は、明治大学大学院HPからダウンロードしてください。
https://www.meiji.ac.jp/dai_in/bosyuyoko-kakomon/6t5h7p00001c3a52-att/2023keieiken-yoko.pdf
②入学検定料 35,000円

2. 応募要件

以下の3つの要件すべてを満たす場合、応募することができます。

- (1) 社会保険労務士として登録していること。
- (2) 3年以上の人事労務管理に関する実務経験を有する者であること。
- (3) 明治大学大学院に入学する時点で、22歳以上であること。

3. 募集期間

令和4年7月19日(火)から令和4年9月5日(月)

4. 入試説明会

令和4年7月15日に実施した入試説明会の動画を連合会ホームページ会員ページにて配信いたします。入学を検討中の方はもちろん、これから検討したいという方もご視聴ください。

- (1) 配信期間
令和4年7月29日(金)～令和4年9月5日(月)
- (2) 説明会内容
 - ①全国社会保険労務士会連合会からの挨拶
 - ②明治大学大学院経営学研究科長からの挨拶
 - ③経営労務プログラムの入試・カリキュラムについて
 - ④人事労務系教員紹介・挨拶
 - ⑤経営労務プログラムで学んだ経験について（修了生から）
 - ⑥教育補助講師紹介・挨拶
 - ⑦公開講義の案内
 - ⑧グローバルフロントの案内
 - ⑨質疑応答

5. 提出書類

- (1) 職務経歴書
 - ① 所定の様式を使用してください。
 - ② 所定の様式は、連合会ホームページの会員ページ お知らせ「令和5年度明治大学大学院経営学研究科（経営労務プログラム）募集及び入試説明会動画のご案内」よりダウンロードできます。
なお、A4版でプリントアウトし、提出してください。
- (2) 課題レポート
 - ①テーマ 下記1および2のいずれかから1つを選択してください。
 1. いわゆるフリーランスの利用に関する労務管理のあり方について、社会保険労務士の視点であなたの考えを述べてください。
 2. 近年、ハラスメントに対する企業の対応責任が重くなってきています。このような状況下、職場のハラスメントについて、企業外の人たち（顧客、就活生など）との関係も含めて、社会保険労務士の視点であなたの考えを述べてください。
 - ②文字数 : 3,000字程度 (2,700字～3,300字)
※句読点は文字数にカウントしてください。
※参考文献は必ず明記してください。なお、文末に参考文献を列記する場合、文字数のカウント外としてください（文末に文字数を明記してください）。
 - ③提出形式 : パソコンで作成し、A4版・縦方向、横書でプリントアウトし、提出してください。
 - ④その他 : レポートは、1行目に所属会及び氏名、2行目に選択したテーマ、その後1行あけて、4行目から本文を書き始めてください。

6. 書類提出先

所属の都道府県社会保険労務士会

7. 提出方法

- (1) 所属の都道府県社会保険労務士会に持参
各都道府県社会保険労務士会の業務時間内に持参してください。
 - (2) 所属の都道府県社会保険労務士会に郵送
特定記録郵便もしくは簡易書留扱いで郵送してください。
令和4年9月5日(月)必着です。
- ※提出書類に不備があった場合は受け付けられません。

8. 連合会における推薦者の決定

- (1) 都道府県社会保険労務士会会長の推薦に基づき、連合会に設置された推薦委員会において、提出書類を審査のうえ決定されます。
- (2) 推薦に関する結果は、連合会から直接応募者に通知します。
- (3) 推薦者の決定に関する照会には応じられませんので、あらかじめご了承ください。

9. 出願

- (1) 連合会において推薦が決定した場合、別途、明治大学大学院に出願していただくこととなります。
- (2) 明治大学大学院への出願期間は、令和4年11月27日(日)～令和4年12月2日(金)となります。

10. 明治大学大学院における合格者の決定

- (1) 出願者の書類選考・面接試問が明治大学大学院において行われます。
- (2) 面接試問日は令和5年2月22日(水)、合格者の決定日は令和5年2月24日(金)です。詳細は明治大学大学院経営学研究科の募集要項をご確認ください。
- (3) 合格に関する通知は、明治大学大学院から直接合格者に行われます。

お問い合わせ先 全国社会保険労務士会連合会 社会保険労務士総合研究機構 TEL 03-6225-4870

よくある質問 (FAQ)



Q 仕事が忙しいため、2年間で卒業単位を取得した上で、修士論文、課題レポートを書き上げる自信がありません。必ず2年間で修了しなければいけないのでしょうか。



A 必ずしも2年間で修了する必要はありません。最大で4年間在籍可能です。過去のケースでは、入学当初から3年計画で入学された方もいらっしゃいました。ご自身の状況に応じて柔軟な学び方が可能です。

また、大学院入学前に「科目等履修生制度」を利用して、入学後の負担を減らす方もいらっしゃいます。当該制度については下記をご確認ください。

<科目等履修生制度について>

大学院で開設されている特定の科目を履修し、一定の単位を修得することが可能です(学士の学位を有する方のみ)。また、本制度で修得した単位は、大学院入学後に「単位認定申請」することにより、大学院修了に必要な単位として認定されます。



Q 大学を卒業してからかなりの年数が経過しているため、講義についていけないのか不安です。大学院の授業を体感できる方法などはありませんか。



A 上記「科目等履修生制度」の他、例年9月下旬～10月上旬に開催される公開講座に参加することにより、大学院入学前に授業の雰囲気等を体感し、不安を払拭した上でチャレンジされる方もいらっしゃいます。詳細につきましては、明治大学大学院経営学研究科までお問合せください。



Q 大学在学時、卒論を書いた経験がない方、卒論を書いてから年数が経過している方、あるいは、卒論を書いた経験はあるが経営学とは遠い分野である方をサポートしていただける制度はありますか。



A 本プログラムでは、研究活動をサポートするための**教育補助講師**（下記参照）が置かれ、自学・自習のための支援や論文執筆に関わる助言を行います。不安を払拭しながら研究に臨める体制が整えられています。

社労士院生の研究活動に対するサポート体制

—教育補助講師による研究支援体制—

【入試説明会における明治大学大学院経営学研究科資料より抜粋】

経営学研究科に入学した現役社労士は、2年間の研究活動を通じて修士論文または課題研究レポートをまとめて提出しなければなりません。実務志向の考え方を学術研究志向に転換させるのは、誰でも大変に辛いことです。経営労務プログラムは、修士論文を作成する過程において現役社労士が直面する困難を想定し社労士の研究活動をサポートするための教育補助講師体制を整えています。

1. 授業補助
2. 教材作成
3. 授業のフォローアップ

担当教員の指示に従って、授業のフォローアップを行います。このフォローアップとは、やむをえない事情で授業を欠席した院生に対し、教材を配布したり、授業の概要と要点について解説したり、また、必要な場合には、必読すべき文献を紹介します。

4. 学習への支援・指導

担当教員の指示に従って、院生個人の自学・自習に対する支援と指導を行います。この場合の“支援”とは、書誌の利用法、文献検索法、図書館活用法、研究に必要な文献収集、情報収集に関わるものを指しています。また、この場合の“指導”とは、修士論文執筆に必要な「執筆要領」に関わる助言、場合によっては、修士論文作成上の注意などを指しています。

〈 科目等履修生制度・教育補助講師等に
関する問い合わせ先 〉

明治大学大学院経営学研究科

東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL: 03-3296-4705

明治大学大学院経営学研究科

経営労務プログラム 担当教員のご紹介



中西 晶
明治大学経営学部教授

不測の事態と学びの継続

研究テーマ：高信頼性組織とレジリエンス、安全とセキュリティのマネジメント

担当科目：産業・組織心理学特論、
ナレッジ・マネジメント特論（講義）
経営心理学演習（演習）

プロフィール：右のQRコード参照



山崎 憲
明治大学経営学部准教授

いっしょに人事労務管理とは何かを探求しましょう

研究テーマ：企業活動をめぐる社会・経済システム

担当科目：労務管理特論A・B（講義）
経営労務演習（演習）

プロフィール：右のQRコード参照



早川 佐知子
明治大学経営学部准教授

大学院の勉強は思考のトレーニングになります

研究テーマ：アメリカの病院における人事労務管理

担当科目：人材育成特論、人的資源管理特論（講義）
企業内教育論演習（演習）

プロフィール：右のQRコード参照



石塚 史樹
明治大学経営学部准教授

大学院における学究の道：先生も一年生

研究テーマ：特に独企業の人的資源管理・労使関係・企業統治に関わる実証研究

担当科目：労働経済特論、賃金管理特論（講義）
労使関係演習（演習）

プロフィール：右のQRコード参照



過去の掲載記事は連合会ホームページ会員専用ページにて掲載しています。
こちらからもアクセス可能です。



大学院における 研究成果と社労士業務

内山 由紀子
(東京会)



大学院を目指したきっかけは、15年ほど前、会社の上司が大学院に通い始めたことでした。年齢を重ねても学びを継続する様子を見ているうちに、自分もアカデミックな環境で学び直したいと考えるようになりました。その後、経営労務プログラムが開始されたことを知り、いつかこの制度を利用しようと気持ちを温めていました。

そのころ勤務していた会社は、伝統的な性別役割分担が根付いており、管理職は全員男性で、女性社員は主に周辺業務を担っていました。プライベートでは、夫は長時間労働で出張が多く、私が二人の子をワンオペで育てていました。子育て期はキャリアより仕事と家庭の両立を優先していましたが、後に自分がマミートラックを走っていたことを認識します。2019年4月、下の子が高校生になるタイミングで大学院に入学しました。研究テーマは、自身の経験をベースに女性のキャリア形成としました。振り返れば、この時点では修士論文を書くことの意味を全く理解していませんでした。

入学後、ゼミの早川佐知子先生から、論文執筆とは、問題の根本にある本質を探り、その上で「新たな知見」を示すことであると伺いました。問題意識をもとに「問い」を立て、目的を定め、研究対象や研究方法（質的か量的か）を考え、データを収集し「問い」に対する答えを探求し、そこから新たなインプリケーションを導くのです。先生から女性のキャリア形成と他のテーマと掛け合わせてポイントを絞り、かつ独自性を出すようにアドバイスを頂き、もう一つのテーマを探る日々が続きました。

明治大学経営学研究科には、グローバル人材養成を目的とした国際プログラムがあります。入学時の説明会で、マレーシア工科大学 (Universiti Teknologi Malaysia / UTM) とのダブルディグリー・プログラムは、社会人でも仕事を続けながら参加できる事を知り応募しました。学内選考を経て参加を許可され、新型コロナ流行直前の2020年2月には、UTMク

アラランプール校に約1か月短期留学する機会に恵まれました。現地の社会人大学院生と共に学び、グループディスカッションやプレゼンを全て英語で行ったことは貴重な経験となりました。

そのころ、留学がきっかけで、埼玉県内で活動するNPO法人とつながりを持ちました。その団体はマレーシアとの国際交流を30年以上続けており、代表は女性で、80歳を超えてなお、団体を率いて精力的に活動していました。その様子から、NPO法人と女性労働は相性が良いかもしれないと考えました。文献調査の結果、NPO法人には女性の代表理事がおおよそ3割存在する事を知りました。一方、NPO法人の女性役員のキャリアに着目した研究は見当たりません。そこで、研究テーマは「NPO法人の女性役員」と「女性のキャリア形成」を掛け合わせることにしました。後に早川先生や他のゼミ生とディスカッションする中で「女性のキャリア形成における特定非営利活動法人の意義－女性理事の活躍に着目して－」というタイトルに落ち着きました。研究方法は質的研究とし、営利企業に比べて多くの女性役員が組織の意思決定を行う重要なポジションを担っている要因について、職務経験に着目して分析・考察を試みました。研究対象は事業型のNPO法人とし、先生や知人から紹介頂いた3名の常勤女性理事に「自己の成長を促した仕事経験」について半構造化インタビューを行い、結果を修士論文に纏めて提出しました。

経営労務プログラムへの参加により、労務管理に関する様々なアカデミックな知識に加えて、多角的な視野、論理的思考力、あきらめずに考え抜く精神力を得られました。実務上の問題をアカデミックな視点から捉える力は、今後、業務の中で経験のない課題に直面した際に必ず生きてくると考えます。もしご興味を持たれましたら、ぜひ、一歩踏み出して経営労務プログラムにチャレンジなさってください。

Profile 大学卒業後、総合電機メーカーに就職、総務部に配属。退職後、社労士資格取得(1996年)。大手書店の人事部、専門商社の人事総務部を経て、現在は化学関連のデータベースを取り扱う一般社団法人の総務部に勤務。2022年3月明治大学大学院経営学研究科修士(経営学)、2022年9月マレーシア工科大学大学院 Master of Science (Engineering Business Management) 取得見込